

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和 元 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	交通政策課担当課長 若林 篤	
共創-06	重点事業	交通体系整備事業	自治事務	主管課 交通政策課
	まち・ひと・しごと		法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	道路・交通体系の検討

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全で快適なまちをめざした交通環境をつくりだすため。
効果	公共交通機関における利便性の向上を図るとともに、慢性化する交通渋滞の解消や交通事故の減少を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

・(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向け、走行中の車両のナンバープレートの読取状況について検証を行った。
 ・国土交通省で実施する「鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会」において、本市における交通渋滞の資料作成を行うとともに、ロードプライシングの実現に向けた情報共有を行った。
 ・(仮称)鎌倉ロードプライシングの市民等への周知を目的として、本庁舎や各支所、商業施設等でパネルによる本施策の取組内容の説明や、市民や商工業者との意見交換会、さらには、鎌倉が魅力的なまちとなるために必要なことについて議論するシンポジウムを開催した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算	30年度(2018年度)決算	データ区分	01年度(2019年度)当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	176,466人	人 口	176,436人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	81,150世帯	世 帯 数	82,444世帯	
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	15,475	当初予算(千円)	25,720	
	国県支出金	4,105	国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他		その他		
	一般財源	11,370	一般財源	25,720	
	人員配置数	1.4	人員配置数	3.4	
事業経費運営	人件費(千円)	11,017	人件費(千円)	26,448	
	総事業費(千円)	26,492	総事業費(千円)	52,168	
	市民1人当りの経費(円)	150	市民1人当りの経費(円)	296	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
公 平 性	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
	受益者負担は公正・公平か	・負担未導入 -1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
	○. 協働実施済	協働実施済の場合のパートナー 市民、商工業者、交通事業者、関係行政機関等

事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直し類の	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	見直し類の	事業へ統合

予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	・(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向けた社会実験を行うにあたり、予算規模を拡大する。 ・財源の一部は、社会実験制度等、国・県の補助制度の活用を検討を図る。

総評 (評価に対する考え方、根拠等)	・鎌倉地域の交通渋滞解消に向けた自動車交通の抑制策等の検討については、平成8年に20の施策を位置付け事業推進を図り、一定の成果は出ている。しかし、20年以上経過する中で、市内道路の混雑状況は大きく変わることはなく、その解消に向けた抜本的な対策を求める市民のニーズが高いことから、事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい。 ・平成30年12月25日から鎌倉地域の交通実態や現在検討しているパークアンドライド等の交通施策、(仮称)鎌倉ロードプライシングの検討内容について、市役所本庁舎や各支所、商業施設でパネル展示(日によっては職員が説明)するとともに、「SDGs未来都市かまくら」の創造を目指し、鎌倉が魅力的なまちとなるために必要なことについて議論するシンポジウムを開催し、(仮称)鎌倉ロードプライシングに対する市民等からのニーズは高い。 ・自動車交通抑制策の一つである(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向けた、引き続き法的な課題や課金方法等について検討を行い、令和元年度の社会実験の実施を目指していく。
-----------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	・鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめにおける20の施策について、引き続き検討を行うとともに、(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向けた法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題について検討する必要がある。	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	・「『小町大路』歩行者尊重道路の整備に向けたワークショップ」を3回開催し、小町大路における安全・安心な歩行者優先の道路空間を確保するため、自動車の速度を抑制する対策について検討を行った。 ・国土交通省が公募した「観光交通イノベーション地域」にエントリーし、同省が所管する「鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会」において、鎌倉地域内の交通流動の詳細が明らかになっており、引き続き同省と連携しながら(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向け進めていく。 ・(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向け、走行中の車両のナンバープレートの読取状況について検証を行った。 ・(仮称)鎌倉ロードプライシングの市民等への周知を目的として、本庁舎や各支所、商業施設等でパネルによる本施策の取組内容の説明や、市民や商工業者との意見交換会、さらには、鎌倉が魅力的なまちとなるために必要なことについて議論するシンポジウムを開催した。 ・(仮称)鎌倉ロードプライシングの取り組みについて、近隣自治体の職員に対して説明を行った。	☐ 解決 ☐ 一部解決 ☐ 未解決 ■
未解決の課題、新たな課題とその理由	・鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめにおける20の施策について検討を続け、実現に向けた取組を進める。 特に歩行者尊重道路については、ワークショップ等を開催のうえ、1年に1路線を目途に整備を進める。 ・国・県等と連携を図りながら、(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向けた法的な課題や課金方法、事業費の確保、実施主体等の課題について整理し、解決するための手法を模索し、令和元年度の社会実験を目指していく。 ・(仮称)鎌倉ロードプライシングの検討状況を見据えながら、交通マスタープランの改定に向けた取組を行っていく。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方	
------------------------------	--

事業実施に係る指標

事業実施に関する指標										
指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う 指標の推移に関する 考え方	
-------------------------------	--